



清統旨即興新
二

八遠
1810
2



明遠13
編 1810
2



滑稽音郎奥噺卷之貳

目次

紅毛汁うぐいす

見 多

里 ちりまのり

江戸丸乃

炭子入

及 總香



滑稽音昇真嘯卷之貳

お毛乃

お毛乃の事
けをき一六からんどのまうごよまの二羽入
あり一とて昇真

江戸よ名もさ大医おらんどの学問をこのも毎年
石丁の長崎屋へ来るお毛人よ手まじりせとめ
いろくの奇説をたぐ一珍物をそとめ都合の
るおハ松く顔うらまんく思物文室のたぐひ
フランスコのお付まやお毛づく一まアボスト
ロシツメイキルおど急志をぬるを書あうぞ
容のあうごともおめづりしき房具をたぐふ

是が源内が被しと上レキテルとカテ人の牙中より
火をとる物是がカシブとカテ火氣で被しと物
で火よくらざるまゝでも焼ませぬ是がねらんの蛇
の子是が空の船是がボウトルとまがね衣米よ付
まするボテンでござるおどろいらくの物を出して
見せる客ありハ主人が奇妙がまがねも恐ろし
物由ちどめハ一ツくじりりせしうあまのりは
出さぬ後ハたいくしとあしとちぎりのいふ
かうしと〜成をまねが主人ハ後くとまがね来て

まがねは目よりける物があるとお子とよびたくの
あしよあるうくしを手にていと云はれればあし
か〜ぬり丸いごと目ハ分りや〜愛持て
らるゆ〜まよりカシバまづ竹とも何ともあはれす
みどりよ光る花のやうな物あて〜るるを
中あはうくしを二羽入てあつて鉄入ハや〜もの
何とも志重ぬ奇物なれが〜あわら〜途を
りしあし〜あ息たいて〜肉主人何と湯洗じ
たう何でも遠くありそ〜とんと日本〜ね

物のうへにひきまをきくさうとてうへにひきまをきく内におの
うくひす羽衣をひいて千ヤシビウアボカしくと
しよと認の二羽もをばつくりひいてわうけさる
く主人刻銘く啼きうへにうへに通河でござる

見よて

御田とぞよあやけいことうつきての船あそひ
内川にたのしうあ、沖へまきとの気まき大を
次舟はちうつくき浦系帆と十分よまよこあまの
のちうへに船たいこの柱八且あう向よとちうへに帆うけ

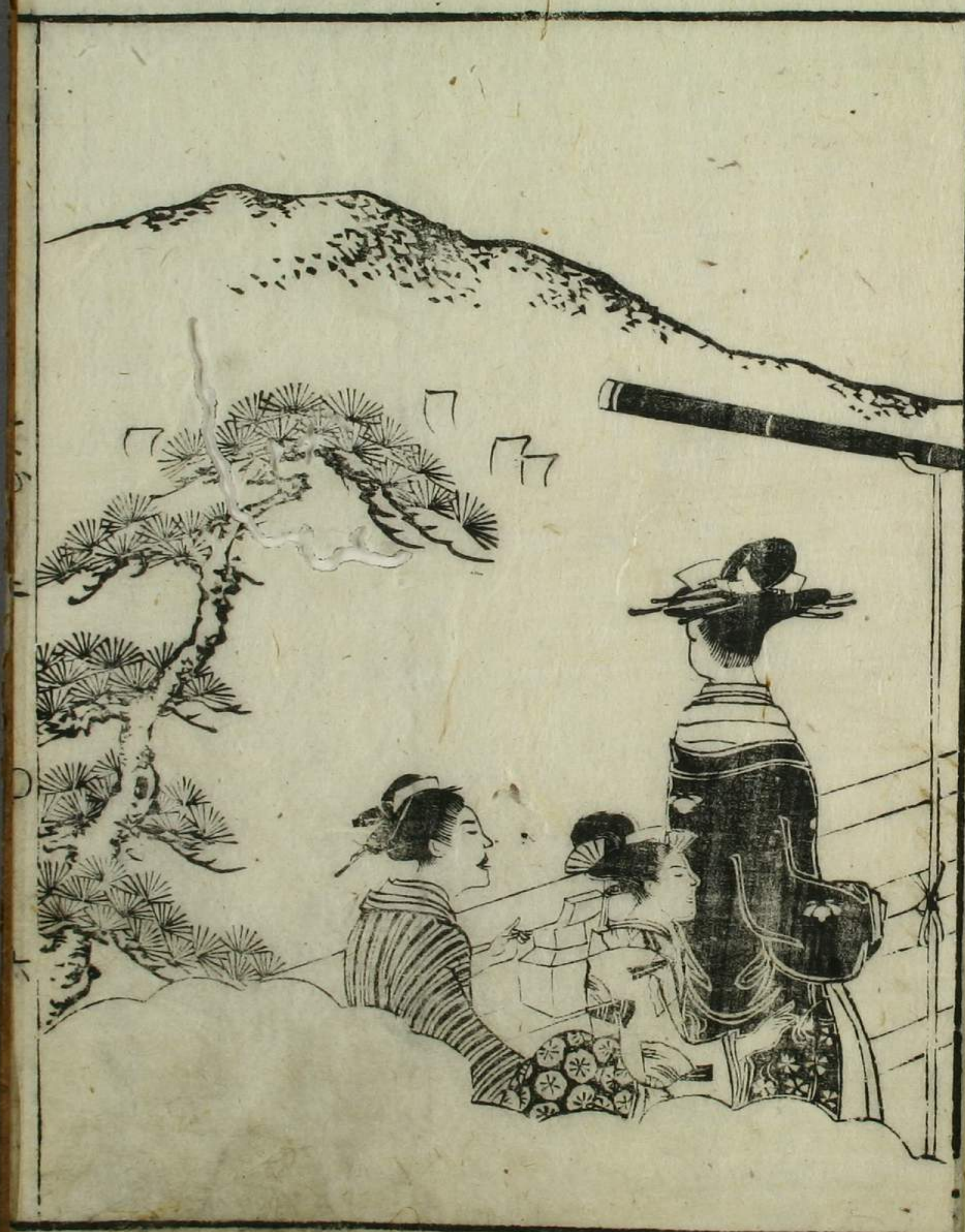
うへにひきまをきくさうとてうへにひきまをきく内におの
うくひす羽衣をひいて千ヤシビウアボカしくと
しよと認の二羽もをばつくりひいてわうけさる
く主人刻銘く啼きうへにうへに通河でござる
見よて
御田とぞよあやけいことうつきての船あそひ
内川にたのしうあ、沖へまきとの気まき大を
次舟はちうつくき浦系帆と十分よまよこあまの
のちうへに船たいこの柱八且あう向よとちうへに帆うけ
うへにひきまをきくさうとてうへにひきまをきく内におの
うくひす羽衣をひいて千ヤシビウアボカしくと
しよと認の二羽もをばつくりひいてわうけさる
く主人刻銘く啼きうへにうへに通河でござる
見よて
御田とぞよあやけいことうつきての船あそひ
内川にたのしうあ、沖へまきとの気まき大を
次舟はちうつくき浦系帆と十分よまよこあまの
のちうへに船たいこの柱八且あう向よとちうへに帆うけ

けんさーのぞきさ下^{げんさー}且^た船^{ふね}流^{なが}んまても大^{たい}るあくバ
マ^マーおもちつと^とさ^さま^まーして下^{くだ}さりませ^{ませ}ころ^{ころ}よろ
サ^サア^アく^くぞ^ぞあ^あど^どや^やと^とま^まて^てめ^めれ^れて^てあ^あづ^づく^くとり^りこ^こあ^あり
孫^{ひ孫}の^のあ^あひ^ひま^まし^しと^とど^どあ^あて^てらん^{らん}せ^せの^の且^たころ^{ころ}や
お^おも^もろ^ろそ^その^のま^まも^もを^をむ^むば^ばど^どあ^あど^どや^やハ^ハテ^テ指^さな^なご^ごろ^ろ
ま^まり^り中^{ちゆう}ん^んま^まよ^よあ^あひ^ひて

里^{さと}な^なま^まり

ある大^{たい}を^をま^まの^のう^うら^らく^くある日^ひ太^{たい}史^しの^のあ^あろ^ろ仲^{ちゆう}指^さたい^{たい}こ
る^るち^ちと^とり^りつ^つま^まう^うむ^む海^{うみ}で^で大^{たい}ま^まの^のう^うは^はま^まれ^れあ^あら^らふ

か^かろ^ろを^を見^みお^おろ^ろ大^{たい}坂^{さか}を^を一^{いっ}目^めよ^よ見^みか^かろ^ろー^ー西^{せい}南^{なん}よ^よハ
は^は系^{けい}ろ^ろへ^へ帆^ふを^をら^らは^はつ^つく^くく^くを^を船^{ふね}こ^こあ^ある^る風^{かぜ}系^{けい}
太^{たい}ま^まや^やの^のあ^あろ^ろハ^ハを^をろ^ろー^ーろ^ろぐ^ぐつ^つて^て太^{たい}目^めが^が孫^{ひ孫}見^みて^てハ
を^を船^{ふね}で^で見^みね^ねあ^あろ^ろ太^{たい}史^しの^のあ^あろ^ろを^をろ^ろ下^{くだ}を^を
見^みか^かろ^ろー^ー平^{へい}は^はま^まの^のあ^あろ^ろを^をろ^ろと^とあ^あら^らて
と^と作^{つく}ら^らせ^せあ^あろ^ろー^ーほ^ほく^くせ^せよ^よい^いふ^ふあ^あど^どや^やが^が海^{うみ}が^が心^{こころ}と^とら
と^とん^んご^ごもの^のが^があ^あい^いー^ーあ^あら^らん^んで^で見^みか^かろ^ろと^とあ^あら^らん^んか^かん^ん
わ^わが^があ^あろ^ろあ^あま^まの^のあ^あら^らと^とあ^あら^らん^んも^もあ^あら^らん^んか^かん^ん
上^あり^り下^{くだ}を^を見^みか^かろ^ろの^のま^まあ^あら^らん^んか^かん^んと^とあ^あら^らん^んか^かん^んと^とあ^あら^らん^んか^かん^ん



おーそかりらきもせむひ切てえんごふひまを
おてそまゝ新羅りや旦那目かあわことこあく
下うけざりさつげよありを女抱いあくさきいも
性根付をちまうつひを静そいしんかたせ志小
かまーこいあ

江戸もの

江戸もの大坂見物のさめ 弘治のわづら小遣道
しそまづ天は天神よ糸指せんと旅者を出浪花
橋よさくき東よまか城系橋八けん登五悔の

御堂市の六徳一ぬの舟入くく大に橋山橋のをあ
せんこの本ぢー渡屋ぢー西国橋まで一めんよ
んくまゝる絶系橋の敷さく十六んもる島あれ
とももしとあいと橋のらんかんよもこれんごい
うらどろーこづろまやろ雪踏ろー川の中へ
踏どろー南無之六百て笑つてせこいあまの
こと川の中をんきバ浅遊ようおくうい
あまばほいあまこもあまおとあひまろ
案内あぬ川あまばうろよんこもあまもせん

このつてぬる汗あせつきよこいを食くううめをなしや
しんせぬう流ながれぬくく江戸者江戸者コリヤコリヤアア踏ふ踏ふ
死してくまあいうを食くどくをあつてのでごんをに唐たう
向むかふさごとさごとむしくとんをり且かつ助すけをんがんご
んを江戸江戸廿四廿四又又かべいごとさめつそうをアせつご
廿四廿四又又やそごごとさむるものう江戸江戸そんあつ廿二廿二
かハイエくく亀かめ二ニつつあつそうそうくくいいめめのけかん
まととおきよあがぬうちげんく波なみぐさてせつくご
あがむるやうをあむむのあままをあぐーごご八百

つらいこととあせりアレサ流ながれぬるつめくとあつてなれる
四十八四十八文文かハごとさごイエくく江戸江戸そんあつ七十一七十一文
かハごとさごイエくく江戸江戸よいいとんで百百又又ごご
むハごとさごイエくく江戸江戸ハテあじいの百百廿四廿四又
でハごとさごごとさごイエくく江戸江戸百百四四十十也也もいやう
ごとさごイエくくそんあつあいハマアアごごをめり
三百三百又又ごご

炭すす入いれ

コレコレをドの太夫あらうとんのイエく入いれんく悪わるい

ごごりまをフム丈ハ舞のどく刺痛といふ花ハ
洗いぬぬ物しやそしとくぐるハイたバー又
けつしるハイゴグハ始終そをよ指ゆるトヤ
あいうどんあやうをトヤイト斗てハゴウね愁
もどらくしひあくそあよハイかおどてかあつ
さだつら

○ 反魂香

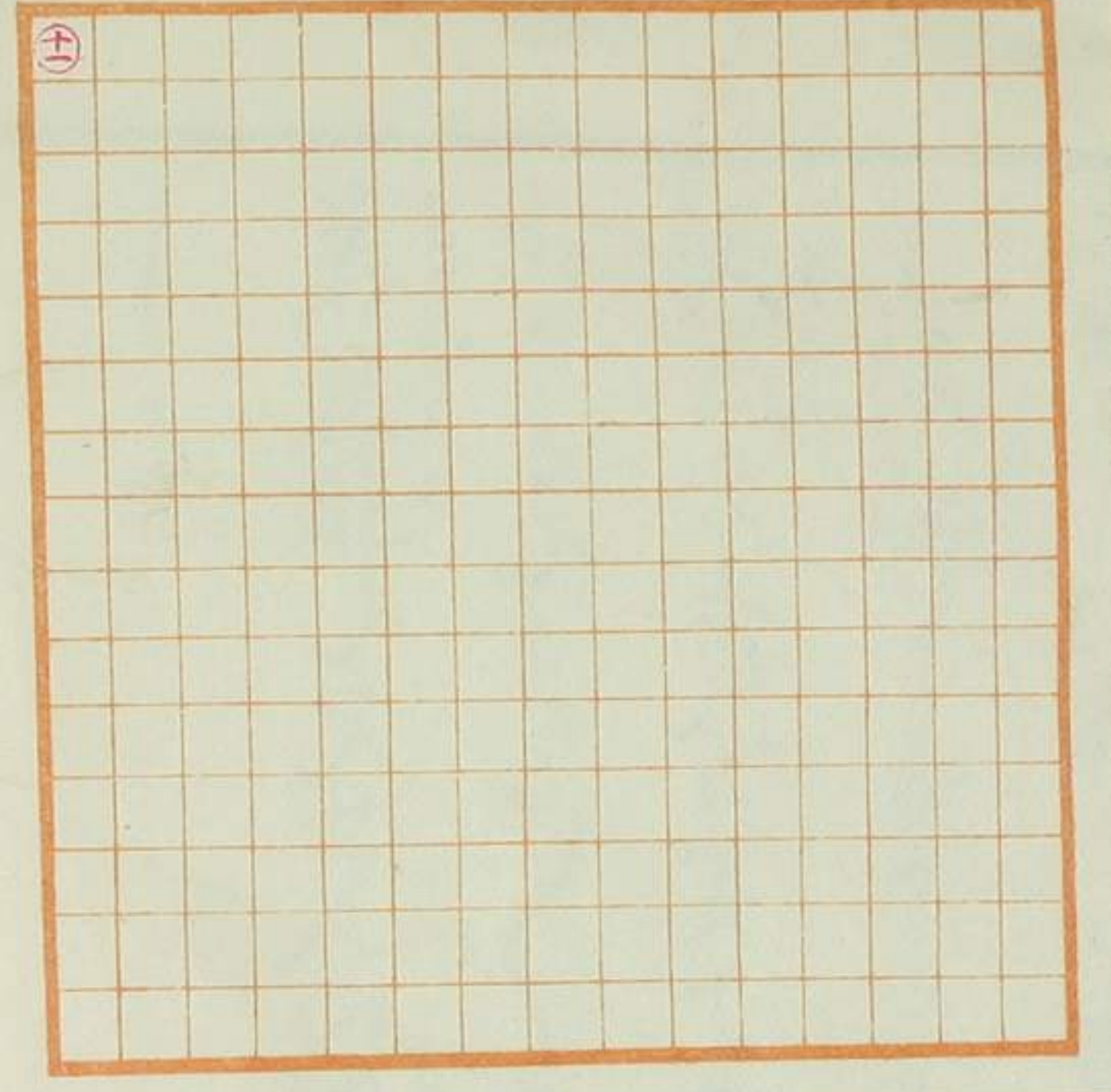
去西曆屋のむとこ水の秋地乃義子小なりド
あんどろ尺祢ハ持しまぬかひ強もぬ源ハ

祢ハ死に死のあ乃合討番頭の忠義もの介そ
はるをさうそしもれ事あつバ家の祢し不
承知を支親をたさほけ義子の親にまら
孝義ともいふ出入の医者をとり親おしそ表
向のよびむ之るもまきてあ人が祢うひの通
存あう手とたうねを年屋の二人の通孫傳を
月元とちざりたるうさうくまると嫁ハあうく
芳候をまづひとひもあぬ五虎のまうまむを
るハ一雨はいてあけさも煙は流りまぬ

縁ゆかりの香かほ一ひとと旦那寺だんなでう石塔いしとうをそとて七日ななひの
香かほ花はなもさきつが家内けいだいの手てまを能志えいちのびくくの
墓むらありあひ出いを志こいのちどか中町なかつまちのかとりそ
だんハ位次なせだでどあてまうう三九さんじゅう座ざでかあてとだち
あぐろ志こころあめさるううひやく紋もんの紙かみ入いれのぬいまで
あひ出いしてあらせ香かほく及およ魂たま香かほをさけあてび
死しんものよあつちると芝居しばいのうりううあひ射や
てんあもいふんをそふ業くさう屋やを吟味ぎんみしるぬバ
あつちの手次てつぎをそあつちくわくどり手てふ入いり

とや旦那だんなちゆさ石塔いしとうのあへりたをとうう
用もち意いの香物かほものを出いして件くわんの香かほをさけあて
と志こころあめさるううくえドころ網あみをえつち七しち者もの
かあめあつちくと納まうちちや香かほがさぐりに
あまバ又またはさたせあつち香かほの斎さい持もちて
地ちがきして石塔いしとうがゆきうごこ出いをあつち
むまこハ志こころあめさるううあひをさけあつち志こころ入いが出いるを
くとあの手てを合掌がっしょうして念仏ねんぶつをまあるち
香かほのけりあつちと石塔いしとうがうごこあつち一時いちじ

4年 月



是ハ志^クりト香色^クト云^ハバヤ香^ハ一^クけ^ハい

も^ハと^ハ実^ニて^ハ来^ルヨ^クも^ハあ^ルハ
あ^ルも^ハあ^ル何^レも^ハあ^ルハ
名^ニて^ハ七^ノ者^ノよ^クたい^ニめん^ニせ^ハよ^クと^ハ士^ノを^ハ
月^ノと^ハ色^ノハ^ハ番^ノ匠^ノが^ハあ^ルハ
地^ノ者^ノハ^ハど^ノぞ^ノお^ハあ^ハひ^ハな^ハる^ハは

滑^ハ杭^ハ馬^ハ具^ハ真^ニ鳴^ク卷^ハ之^ハ以^テ終^ル

是ハ志^{こころ}と香^{かぐつ}色^{いろ}と見^みま^まバ^バとや香^{かぐ}の^の香^{かぐ}一^いけ^いら^らい
こ^ころ^ろく^くの^のあ^ある^るみ^みあ^ある^るも^もと^とあ^ある^ると^とあ^ある^るよ^よう^うこ
と^と悔^くい^い一^いか^かぐ^ぐあ^ある^るも^もあ^ある^る何^{なに}て^ても^もあ^ある^る一^いか
ん^ん山^{さん}は^は香^{かぐ}を^を笑^{わら}て^てあ^ある^る七^{しち}者^{しや}よ^よた^たい^いめん^{めん}ち^ちよ^よと^とま^まを^を
あ^あら^らふ^ふふ^ふと^とく^く内^{うち}の^のと^とま^まを^を番^{ばん}路^ろが^がら^らあ^ある^るハ
若^わし^し那^なさ^さげ^げん^んの^の地^ぢ表^へは^はど^どぞ^ぞお^おあ^あひ^ひな^なと^とま^まを^を満^{まん}
一^いこ^こ

滑稽^{こわい}扇^{あふ}真^ま噺^{ばな}卷^{まき}之^の終^{はつ}

